

2026年2月期 第2四半期

決算説明資料

2025年10月10日

古野電気株式会社

注意事項：

本資料に記載されている内容は、公表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣による将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのためさまざまな要素により、記載された見通しと異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、当資料の数値表記は、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表に記載の金額は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率その他の数値は、四捨五入により表示しております。

◆ 売上高：増収

➤ 舶用事業の売上増加

- 商船向け市場は新造船向け、換装向け共に好調な需要環境が継続
- プレジャーボート向け戦略商品の米州での販売拡大に加え、米国の関税引き上げを背景とした駆け込み需要が売上を押し上げ
- 注力する保守サービス売上も国内・海外ともに増加

◆ 営業利益：増益

- ### ➤ 将来成長に向けた人財やDX等への投資により 販管費が増加するも、舶用事業の売上増加により増益

◆ 業績予想：上方修正

- ### ➤ 中国における新造船向け販売を中心に、舶用事業の販売は 期初想定を上回る好調な推移を見込む
- ### ➤ これに伴い、売上高・利益ともに過去最高の更新を目指す

※ 為替感応度（2025年2月期実績値）

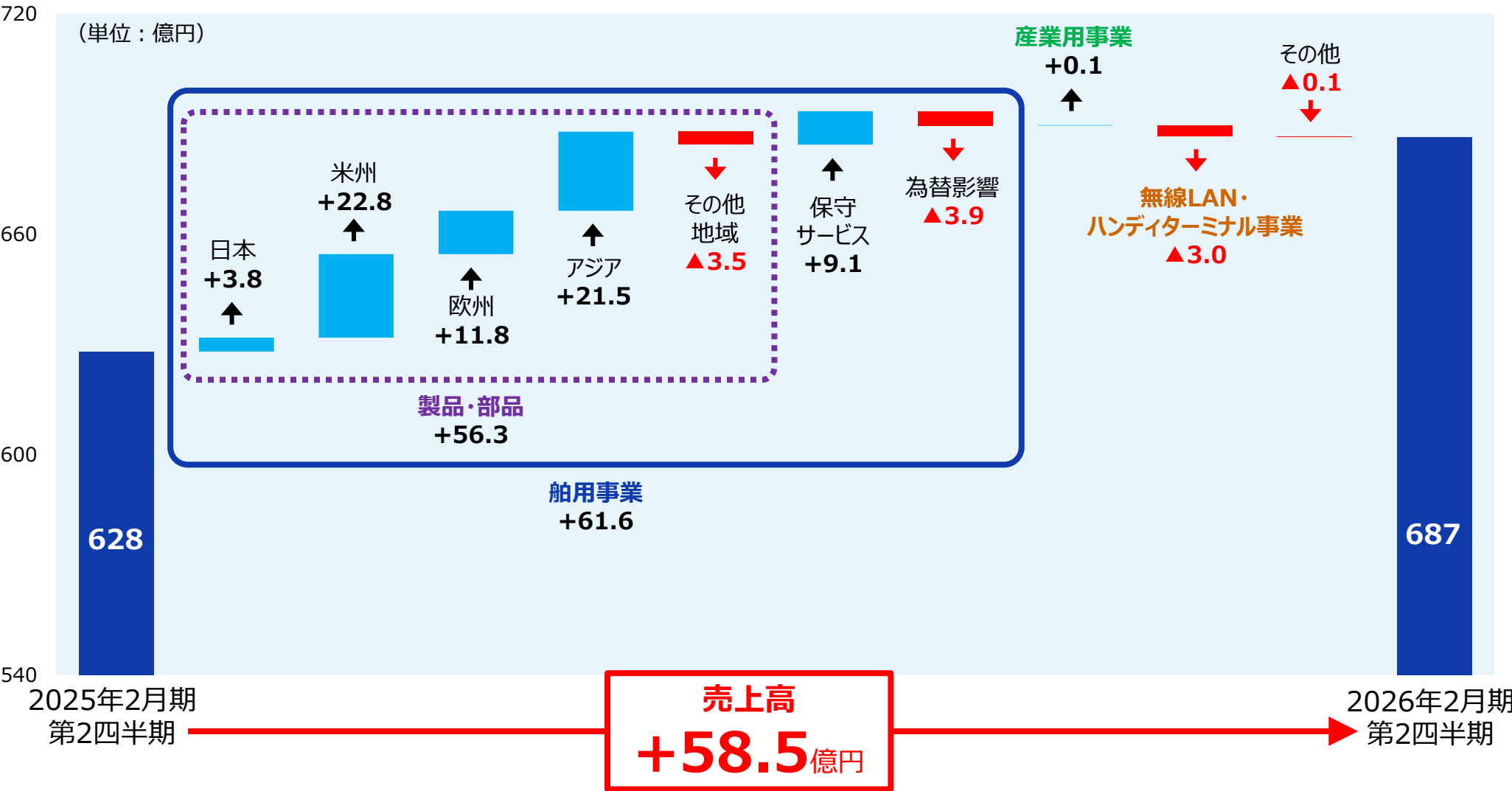
【ドル】売上高：1.3億円、営業利益：0.4億円

【ユーロ】売上高：2.5億円、営業利益：1.1億円

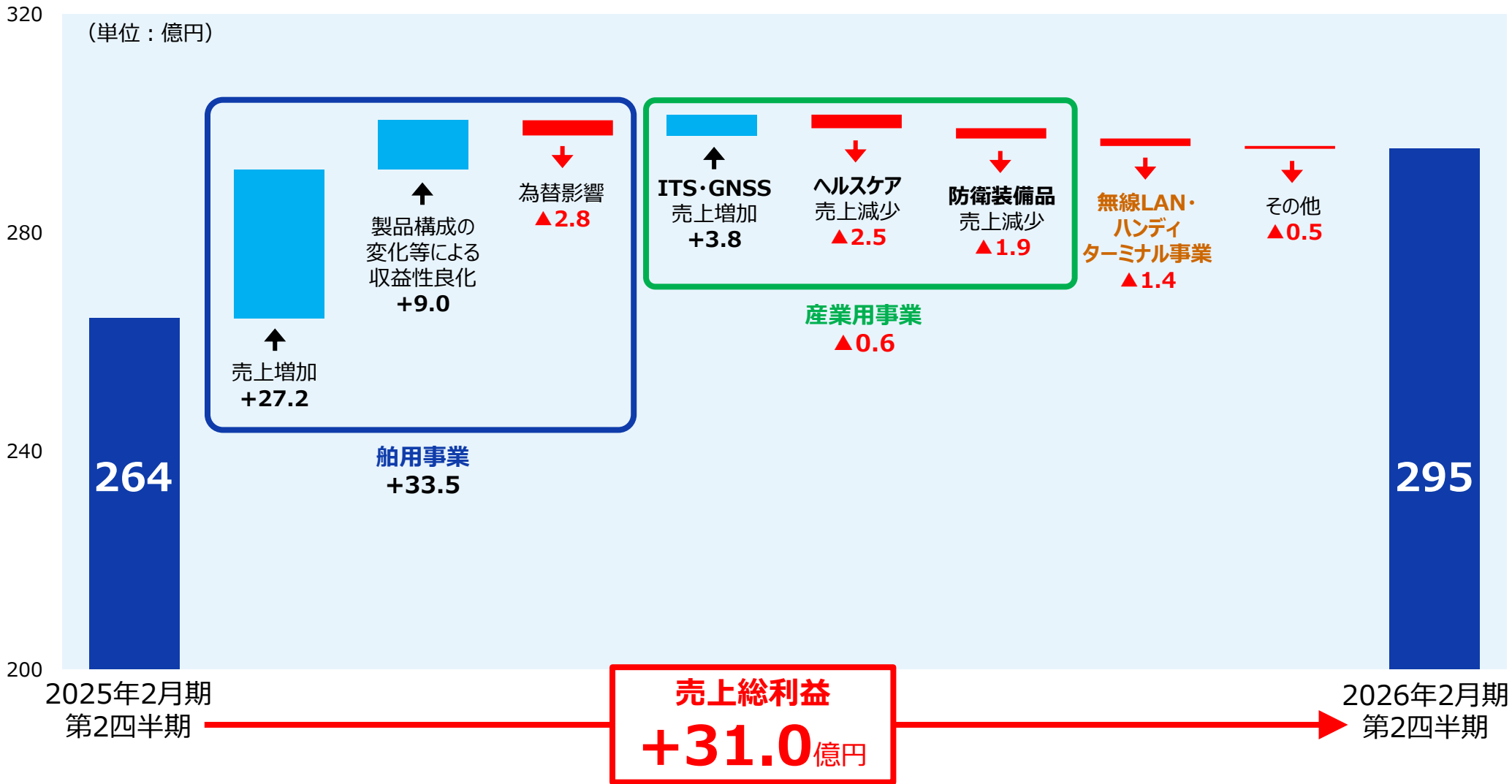
好調な舶用事業の販売拡大により、中間期における売上高・利益ともに過去最高を更新。
税効果会計等に伴う税負担率の一時的な減少に伴い、当期純利益は大きく伸長。

(単位：百万円)	2025年2月期 第2四半期	2026年2月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	62,801	68,653	+5,852	+9.3%
売上総利益 (対売上高比率)	26,433 (42.1%)	29,534 (43.0%)	+3,100	+11.7%
販売管理費 (対売上高比率)	19,134 (30.5%)	20,230 (29.5%)	+1,096	+5.7%
営業利益 (対売上高比率)	7,299 (11.6%)	9,303 (13.6%)	+2,003	+27.5%
経常利益 (対売上高比率)	7,514 (12.0%)	10,169 (14.8%)	+2,655	+35.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (対売上高比率)	5,067 (8.1%)	10,190 (14.8%)	+5,122	+101.1%
研究開発費 (対売上高比率)	2,954 (4.7%)	3,007 (4.4%)	+53	+1.8%
設備投資額 (対売上高比率)	2,024 (3.2%)	2,205 (3.2%)	+181	+9.0%
減価償却費 (対売上高比率)	1,706 (2.7%)	1,836 (2.7%)	+129	+7.6%
(単位：円、期中平均レート)				
為替 (対ドル)	150	150	▲0	▲0.3%
為替 (対ユーロ)	165	163	▲2	▲1.3%

船用事業の商船向け機器販売は新造船向け、換装向け共に好調を維持。保守サービスの売上も継続して増加。米州においては今期上市したプレジャーボート向け戦略商品の販売が好調。



船用事業は売上増加に加え、製品構成の変化が収益性向上を更に後押し。産業用事業は時刻同期製品を中心にITS・GNSSの売上が増加するも、ヘルスケアと防衛装備品の売上が減少。

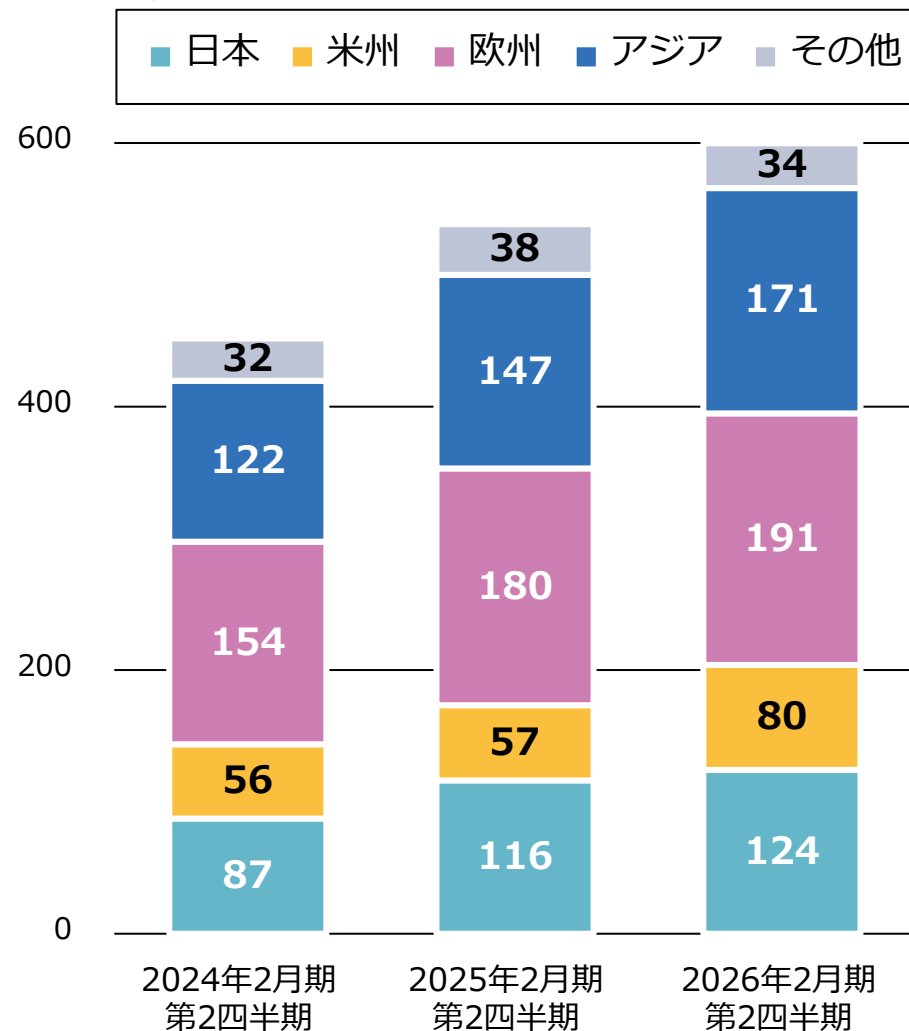


将来成長に向けた人財やDX等への投資により販管費は増加するも、
舶用事業の売上総利益の大幅な増加により増益。



船用事業 連結売上高（累計・地域別）

（単位：億円）



船用事業

売上高 **600**億円（前年同期比 **+11.4%**）

セグメント利益 **95.2**億円（**+25.9**億円）

- 商船向け市場は好調な需要環境が継続
- 保守サービス売上は国内・海外ともに更に増加
- プレジャーボート向け市場は中小型艇を中心に軟調ながら、戦略商品の販売が好調

◆日本：売上高 **124**億円（**+7.0%**）

- 漁業向け機器の販売が減少
- 商船向け機器の販売と保守サービスが堅調に推移

◆米州：売上高 **80**億円（**+39.0%**）

- プレジャーボート向けに今期上市した戦略商品の好調な販売に加え、前倒し需要も重なり販売は大きく増加

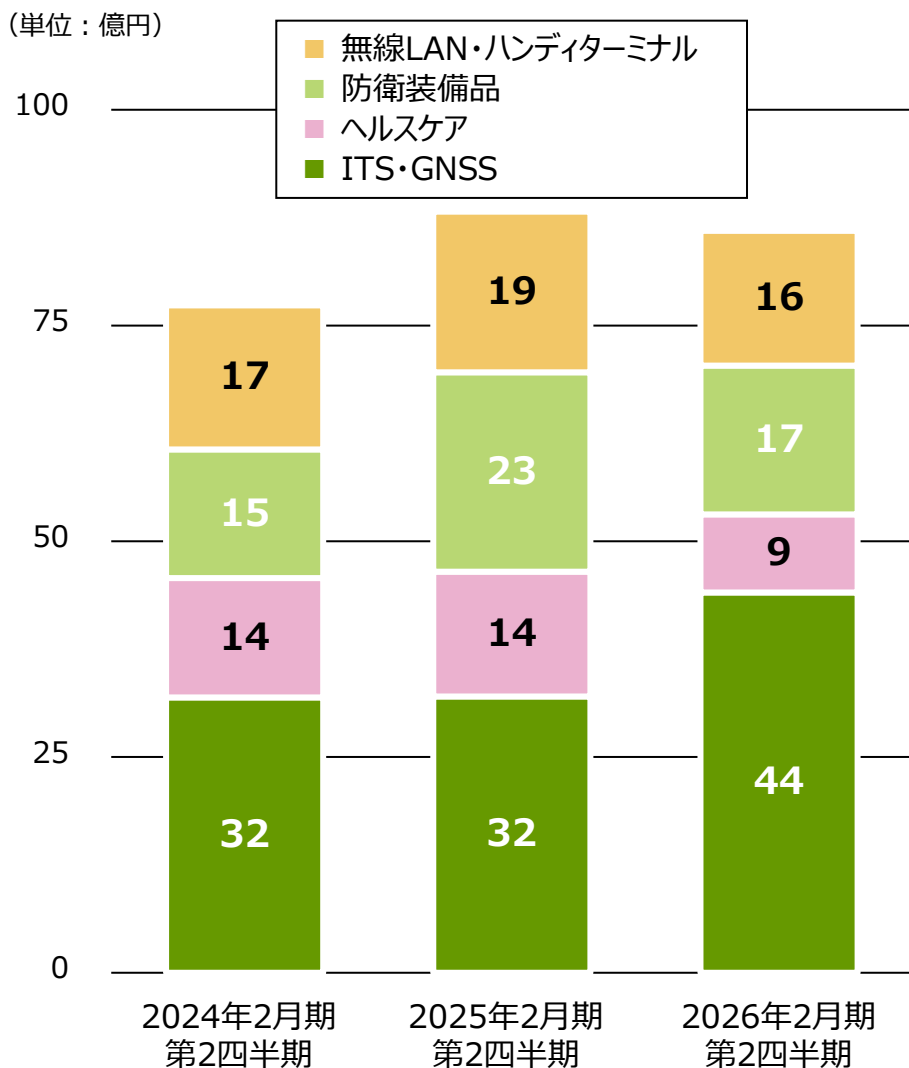
◆欧州：売上高 **191**億円（**+6.3%**）

- 商船の既存船向け機器の販売や保守サービスは引き続き高い水準を維持

◆アジア：売上高 **171**億円（**+16.5%**）

- 主に商船の新造船向け機器の販売が大きく増加
- 保守サービスも堅調に推移

産業用事業、無線LAN・ハンディターミナル事業 連結売上高（累計・事業別）



産業用事業

売上高 **70**億円（前年同期比 **+0.1%**）

セグメント利益 **1.9**億円（**▲1.1**億円）

- 時刻同期製品の海外向け販売が好調に推移
- ヘルスケアと防衛装備品の売上減少により減益

◆ITS・GNSS：売上高 **44**億円（**+37.6%**）

➢ 時刻同期製品の販売が海外向けを中心に好調に推移

◆ヘルスケア：売上高 **9**億円（**▲37.4%**）

➢ 中国市場でのコスト競争の激化による影響により
生化学分析装置の販売が減少

◆防衛装備品：売上高 **17**億円（**▲25.5%**）

➢ 新生産管理システムへの移行影響は徐々に緩和、
生産体制は正常化に向かっており、下期挽回を図る

無線LAN・ハンディターミナル事業

売上高 **16**億円（前年同期比 **▲16.0%**）

セグメント利益 **0.1**億円（**▲1.2**億円）

- 文教市場向けの需要環境は低調に推移し、
無線LANアクセスポイントの販売が減少

※参考資料：連結貸借対照表

(単位：百万円)	2025年2月期 通期	2026年2月期 第2四半期
流動資産 (現金及び預金) (たな卸資産)	91,605 (16,113) (43,573)	93,211 (17,339) (43,354)
固定資産 (有形固定資産) (無形固定資産) (投資その他の資産)	31,913 (16,611) (6,087) (9,125)	34,106 (16,657) (6,121) (11,327)
資産合計	123,519	127,318
流動負債 固定負債	35,690 15,209	31,062 15,931
負債合計	50,899	46,993
株主資本 その他 非支配株主持分	64,259 7,927 433	72,115 7,740 468
純資産合計	72,619	80,324
負債純資産合計	123,519	127,318
自己資本比率	58.4%	62.7%

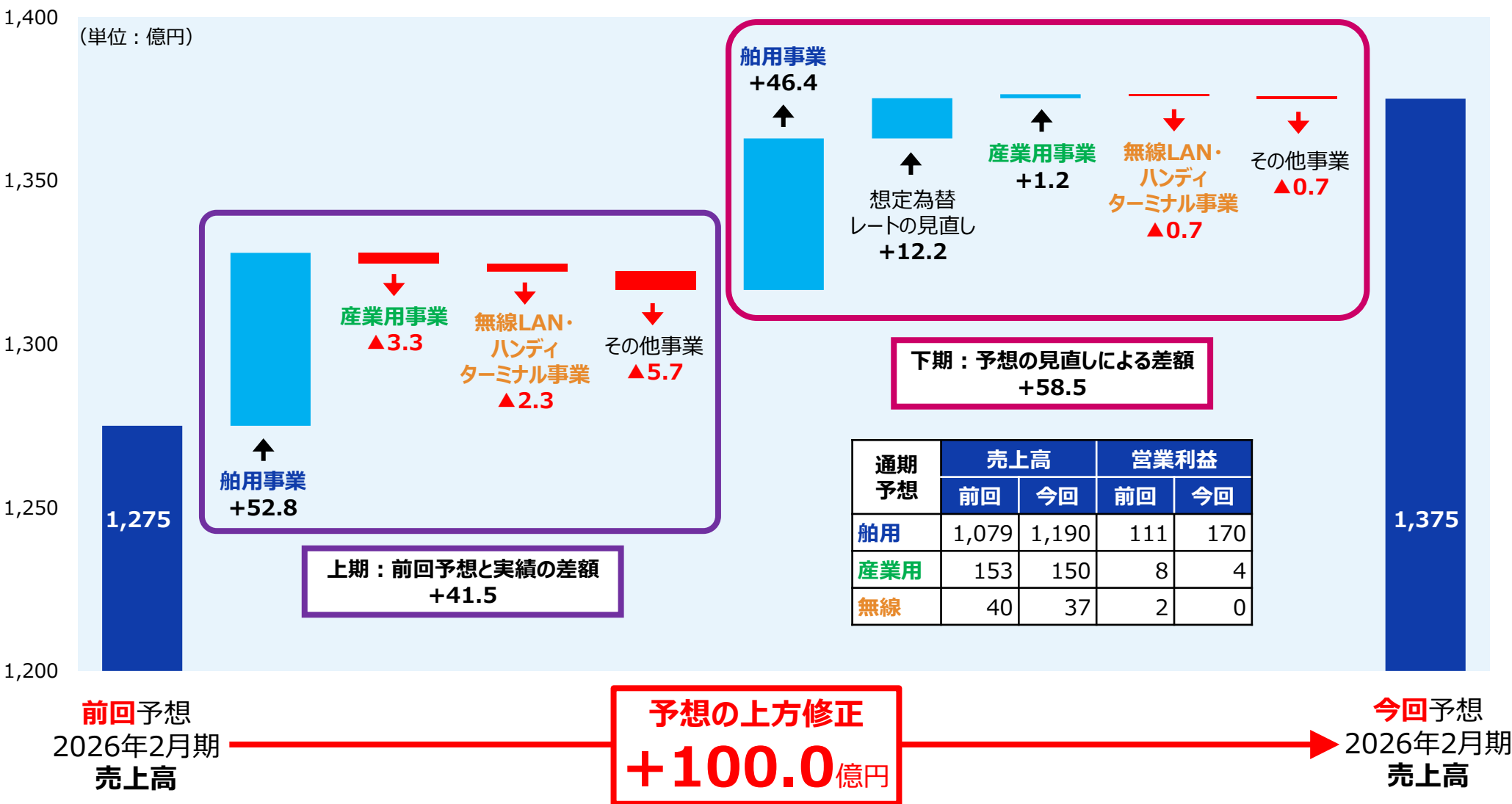
中国における新造船向け販売を中心に、船用事業の販売は期初想定を上回る好調な推移を見込む。これに伴い、売上高・利益ともに過去最高の更新を目指す。

(単位：百万円)	2025年2月期 通期実績	2026年2月期 前回の通期予想	2026年2月期 今回の通期予想	増減額
売上高	126,953	127,500	137,500	+10,000
営業利益 (対売上高比率)	13,181 (10.4%)	11,500 (9.0%)	16,000 (11.6%)	+4,500
経常利益 (対売上高比率)	14,158 (11.2%)	12,500 (9.8%)	17,500 (12.7%)	+5,000
親会社株主に帰属 する当期純利益 (対売上高比率)	11,457 (9.0%)	9,000 (7.1%)	15,500 (11.3%)	+6,500
為替 (対ドル)	151	145	148	+3
為替 (対ユーロ)	164	157	166	+9

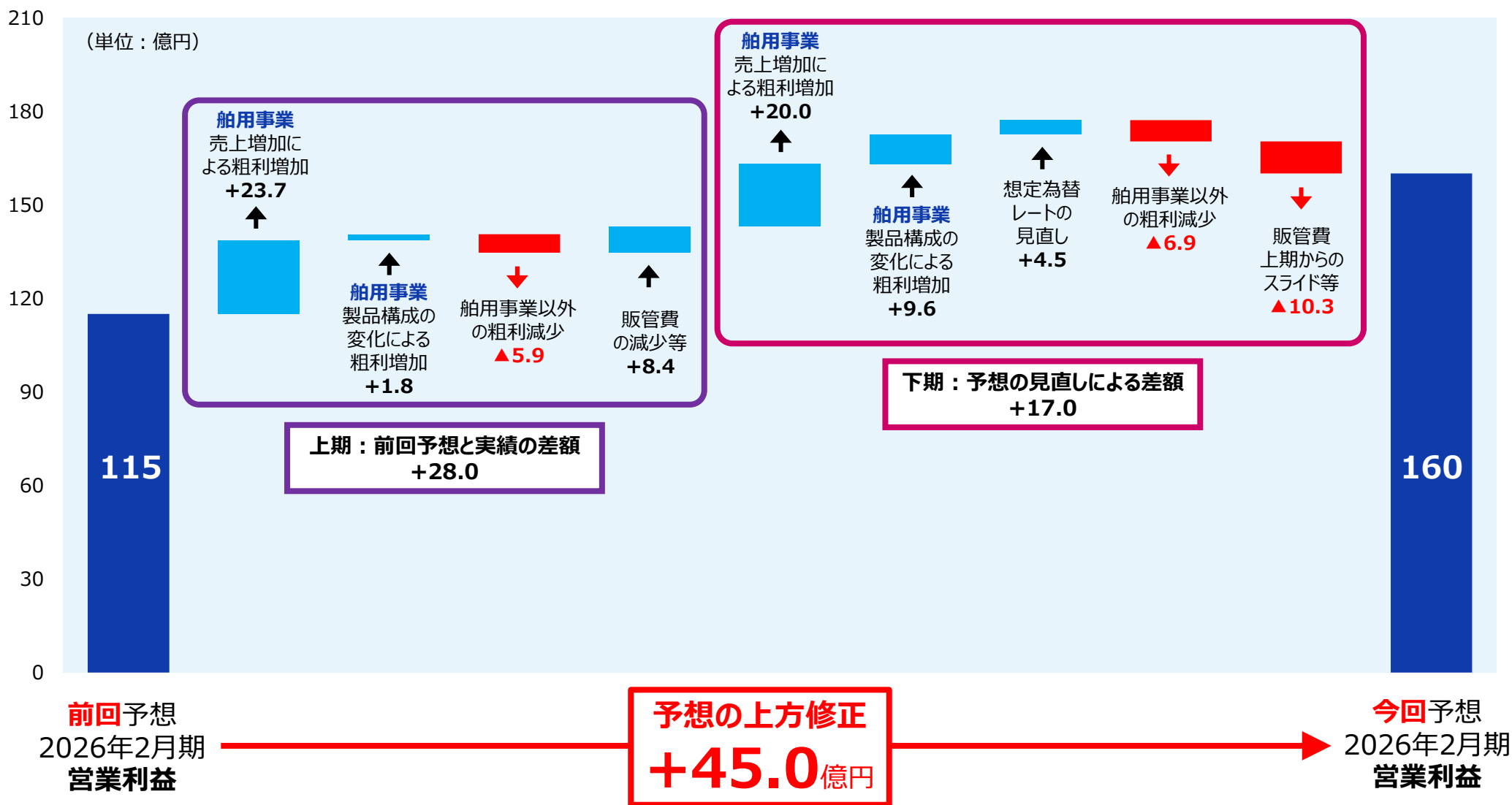
「配当性向30%以上」の方針の下、配当金を150円に引き上げ

(単位：円)	第2四半期末	期末	年間	連結配当性向
2025年2月期	35	75	110	30.3%
2026年2月期・前回の予想	55	55	110	38.6%
2026年2月期・今回の予想	75	75	150	30.6%

船用事業における商船向け（新造船・換装）の需要見通しを、上期実績の水準まで引き上げ。加えて想定為替レートを見直し。



販管費の上期未消化分が下期へスライドする影響等はあるものの、
 商船向けを中心とした船用事業の堅調な需要環境の継続により増加を見込む。



トピックス

「統合報告書 2025」を発行

サステナブルな社会の実現とさらなる企業価値の向上に向けて

当社は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまに、**中長期的な企業価値向上を目指す**ための事業活動や中期経営計画、サステナビリティへの取り組みを財務・非財務の両面からわかりやすくお伝えするために、2023年より統合報告書を発行しています。

本報告書では、FURUNOの価値創造の源泉である経営資本について改めてご理解いただくとともに、持続的な成長に向けた指針を示すことを目的に、**当社の経営資本の詳細**や、**キャッシュアロケーションの方針**、そして**進行中の中期経営計画の下で実行している事業戦略**などについて新たに掲載しています。

今後も当社では、統合報告書や公式ウェブサイトによる情報開示の充実を通じて、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、さらなる企業価値の向上を目指してまいります。

- ・日本語版：<https://www.furuno.co.jp/csr/report/>
- ・英語版：<https://www.furuno.co.jp/en/csr/report/>



水産業の近代化に貢献「IEEE Milestone認定」贈呈式が開催されました

1949年 世界で初めて魚群探知機を商品化

FURUNOは1949年に世界で初めて魚群探知機を商品化^{*1}し、**水産業の近代化に貢献したとして世界最大の電気・電子分野の国際専門組織IEEE^{*2}から「IEEE Milestone」の認定**を受けました。4月25日に国内外から、キャスリーン・クレイマー会長をはじめ、トム・コフリン前会長、福田元会長（2020年会長）などIEEEの関係者が多数来社し、当社西宮本社にて贈呈式が執り行われました。



「IEEE Milestone認定」贈呈式の様子
左：IEEE会長 キャスリーン・クレイマー
右：当社代表取締役社長 古野幸男

*1：当社が世界で初めて魚群探知機の実用化に成功したのは1948年

*2：米国に本部を置く世界最大の電気・電子・情報・通信の技術者の専門組織。世界190カ国以上に46万人を超える会員を擁する

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1659&dispmid=1017

経済産業省「DX認定事業者」認定取得

DX 認定制度について

本制度は「情報処理の促進に関する法律」に基づき、経済産業省が定める「デジタルガバナンス・コード」に沿った**DXの取り組みの準備が整い、変革に向けて踏み出した企業を評価する制度**です。企業がデジタル技術を活用して経営基盤や事業プロセスの変革に取り組み、**競争力強化や持続的な成長を目指す姿勢を評価し認定**するものです。

FURUNOの取り組みについて

DX認定の取得により、「船舶をはじめ新たな事業創出に向けたDXの推進」と「統合ものづくりの最適化・DX人財の育成」をより一層推進し、**基盤となるデータプラットフォームの構築と企業文化の変革に着手**していきます。

さらに2025年3月1日付で顧客の業務DXにおけるクラウドアプリケーションサービスの企画、開発機能強化を目的に、**船用機器事業部内に「DX推進部」を新設**しました。収集したデータを活用し、これまでとは異なる市場や顧客に対して提供できる価値の検討、その価値創造に必要なデータセットについて開発を加速してまいります。



・詳細 : https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1624&dispmid=1017

データマネジメント賞2025「先端技術活用賞」受賞

RAGを活用したサポート体制強化、世代間の技術継承問題を解消

FURUNOは、一般社団法人日本データマネジメント・コンソーシアムが実施するデータマネジメント賞2025において、「先端技術活用賞」を受賞しました。本賞はデータマネジメントにおいて、**他の模範となる活動を実践している企業・機関などの中から優秀なものに対して授与される表彰制度**で、今年で12回目を迎えます。

「先端技術活用賞」受賞理由

FURUNOは、迅速な対応が求められる船舶の緊急修理現場において、中間層の社員が不足するという課題に直面していました。社内にはベテランと20代の若手のみが在籍し、「気軽に相談できる先輩がいない」状況が続いた結果、テクニカルセンターへの問い合わせが増加し、対応が逼迫していました。この問題を解決するため、RAGを導入し、社内の技術文書やサービス履歴、FAQなどを一元管理し、若手エンジニアが自ら情報を検索・判断できる環境を整備しました。その結果、テクニカルセンターの負担が軽減され、「問い合わせ対応の負担が減った」「業務への不安が和らいだ」といった声が現場から上がるなど状況が改善しています。



・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1643&dispmid=1017

世界初*¹、リモートでのVDR年次性能試験に成功【DX】

デジタル技術を活用した試験手法のさらなる普及に期待

FURUNOが提供する船舶向けリモートモニタリング & トラブルシューティングプラットフォーム「HermAce」を使用し、**遠隔による航海情報記録装置の年次性能試験（VDR Remote APT）に世界で初めて*¹成功**しました。

当社の「HermAce」は、日本海事協会登録船（パナマ籍、マーシャル諸島籍、リベリア籍）におけるVDR APT*²の代替手段として以前から承認されており、遠隔からのAPTが可能な状態でした。この度、「SOUTHERN CROSS（パナマ船籍、船種：BULK CARRIER、総トン数：107,450）」でのVDR Remote APTに成功しました。本試験の成功により、**今後デジタル技術を活用した試験手法のさらなる普及が期待**されます。



*¹：一般財団法人日本海事協会登録船において世界初の事例

*²：APT＝年次性能試験（Annual Performance Test）。年に1回実施されるVDRの性能試験

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1623&dispmid=1017

北米最大級の時刻同期学会「WSTS」に出店（2025年5月12日～15日）

時刻同期学会「Workshop on Synchronization and Timing Systems (WSTS)」とは

WSTSは北米最大級の時刻同期学会で、主要な専門家が一堂に会し、**時刻同期分野で起こっている様々なイノベーションについて講演**します。本学会では進化を続ける時刻同期に加え、新たな同期システムや規格が業界および機器メーカーに与える影響について、本分野の第一人者が詳しく説明します。また、出展社は各ブースにて自社製品の展示を行います。

FURUNOの出展内容について

今回当社は、L1/L5の2周波受信により**世界最高水準の性能“時刻精度4.5ns4.5ns（11σ）未満”**と高い堅牢性を兼ね備えた時刻同期用GNSS受信モジュール「型式：GT-100」を紹介するほか、ケーブル接続するだけでネットワーク機器等に正確な時刻情報（1PPS1PPS）を出力するフィールド・タイムシンク・ジェネレーター「型式：TB-1」などの製品を出展しました。また、技術セッションでは、当社の社員が登壇し、今後の時刻同期にはさらなる性能向上が求められることをテーマに、最先端の測位エンジンを使用した1PPS精度の評価の様子を発表しました。



時刻同期用GNSS受信モジュール
「型式：GT-100」



フィールド・タイムシンク・ジェネレーター
「型式：TB-1」



・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1648&dispmid=1017

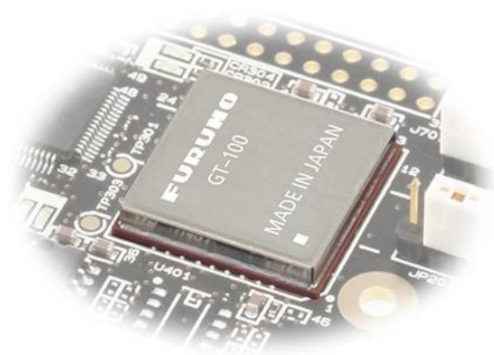
「ワイレスジャパン2025」に出展（2025年5月28日～30日）

「ワイレスジャパン」とは

本展示会は、**5G/ローカル5G、Wi-Fi7、IoT無線、ミリ波／テラヘルツ波、ワイレス給電**など注目のテクノロジーとソリューションを求める来場者が集まる日本最大級の無線通信の専門展示会です。

FURUNOの出展内容について

今回当社は、**5Gモバイル基地局やデータセンター等の重要インフラ向け時刻同期用GNSS製品**の他、建設現場や災害現場といったLAN配線が困難な場所でも高速通信を可能にする無線メッシュアクセスポイント、さらに離島・山間部でも快適なインターネット環境を構築できるスターリンク屋外用キット等の無線通信システムを一同に展示しました。また、本展示会の併設展である「運輸安全・物流DX EXPO 2025」では、一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会のパビリオンブースにて、物流施設における業務車両管理を自動化・パッケージ化した車両入退管理サービス「FLOWVIS（フロービス）」を紹介しました。



左：時刻同期用GNSS受信モジュール「型式：GT-100」

右：時刻同期用マルチGNSSアンテナ「型式：AU-500」

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1653&dispmid=1017

「健康経営優良法人（ホワイト500）」に7年連続で認定

当社は、従業員の健康増進を目指し、**健康意識の向上と安心して働ける職場環境の整備を強化**するため、FURUNOグループ「健康宣言」を制定しています。

古野電気健康宣言

私たちは、経営理念のもと従業員一人ひとりが心身共に健康で、明るく生き活きと働くことができるよう、従業員の健康意識向上と、安心して働きつづけることのできる職場環境の整備に向けた取り組みを推進していきます。

・「古野電気健康宣言」：<https://www.furuno.co.jp/csr/sociality/health.html>

当社は経営理念のもと従業員一人ひとりが心身共に健康で明るく生き活きと働くことができるよう、従業員の健康意識向上と安心して働きつづけることのできる職場環境の整備に向けた取り組みを推進しています。

これら健康経営への取り組みが認められ、大規模法人部門において**2019年度から7年連続で「健康経営優良法人（ホワイト500）」に認定されました**。当社では今後も、社員が健康で充実した日々を過ごせる健康経営を戦略的に実践してまいります。



2025

健康経営優良法人

KENKO Investment for Health

大規模法人部門

ホワイト500

「健康経営優良法人制度」は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みのもと特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業などの法人を顕彰する制度です。健康経営優良法人（大規模法人部門）認定法人の中でも、健康経営度調査結果の**上位500法人のみが通称「ホワイト500」として認定**されます。

「ひょうご・こうべ女性活躍推進企業（ミモザ企業）」認定

「ひょうご・こうべ女性活躍推進企業（ミモザ企業）認定」とは

女性活躍を推進するため、兵庫県と神戸市が共同で創設し、**女性活躍や多様な働き方等に積極的に取り組む企業を認定する制度**です。認定項目は、「企業の取組姿勢」「キャリア形成支援」「女性の登用促進」「女性の定着推進」の4つの柱を軸に、全20項目で構成されています。FURUNOは**認定基準の7割を達成したことで本認定を取得**しました。

FURUNOの取り組み

当社では2023年度に部門横断の女性社員による社長直轄のワーキンググループ「スマイルプロジェクト」を立ち上げ、女性当事者の視点からキャリアアップや仕事と家庭との両立に関する課題を抽出し、施策の立案を行いました。本プロジェクトを起点とし、2024年度にはこれらの課題を解決する**専任組織としてD&I推進課を新設**しました。今後も、すべての従業員が能力と個性を活かし活躍できるように、良い職場と公平な成長機会の実現に向けて、さらなる環境整備に努めてまいります。



D&I推進方針

とんがった個×ゆかいな組織 = FURUNOの成長エネルギー

個の能力の最大化

多様な個性を尊重し、あなたの強みを活かします。

成長と楽しさの共存

あなたがイキイキと働ける環境を整え、挑戦できる組織風土を実現します。

・詳細 : https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1629&dispmid=1017

2050年の海での暮らしを考える「海のお仕事体験プログラム」を開催

"見えないものを見る"会社 古野電気で、海の未来を創造して伝えよう！

FURUNOは2025年7月30日（水）に、夏休み期間中の小学校5・6年生を対象とするお仕事体験プログラム「"見えないものを見る"会社 古野電気で、海の未来を創造して伝えよう！」を開催しました。

今回開催したお仕事体験プログラムでは、海の未来を創造する仕事として、『**2050年には海に未来都市ができて**いるかもしれない。そんな未来を絵に描き、発表する仕事』に挑戦しました。参加した小学生たちは、当社が創業100周年を迎える2048年頃の未来社会コンセプト「Ocean 5.0」の考え方を学んだ後、“海との共存共栄”をキーワードに以下の3つのミッションに取り組みました。

- ① **2050年の海での暮らしを考える**
- ② **私たちが住む街を絵に描**
- ③ **みんなの前で発表する**



海のお仕事体験プログラムに参加した小学生と当社の先輩社員

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1693&dispmid=1017

阪神間の高校生と、海洋プラスチック課題を議論

大阪府、大阪大学連携「海洋未来プロジェクト」

FURUNOは2025年7月26日（土）に、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）※¹支援事業の取り組みとして**阪神間の高校生を当社に招待し、海洋プラスチック課題に関する講義および生徒同士での議論の場を設けるなど社会課題への問題意識の醸成と課題解決に向けた意見交換**を実施しました。

海洋流出ごみの約95%は海中に沈んでいるとも言われており、当社は海に育てられた企業としてこれに取り組むべき社会課題と捉え、今年2月に大阪府環境農林水産部（以下、大阪府）、大阪大学大学院工学研究科（以下、大阪大学）と3者連携協定を結び、海に流出するごみの解決に向けた取り組みを推進しています。今回の場合は、**SSH指定校である西宮市立西宮高等学校が企画として立ち上げた「海洋未来プロジェクト」に、当社および大阪府・大阪大学と連携して取り組むもので、次世代を担う生徒が企業の課題解決における最新の取り組みを学ぶことで、社会課題を認識し問題意識を持つ**ことを目的としています。



・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1693&dispmid=1017

※¹ SSH（スーパーサイエンスハイスクール）：https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/gakkou/1309941.htm

FURUNOグループの事業概要

FURUNOは1948年に**世界で初めて魚群探知機の実用化に成功**して以来、船用電子機器分野において、その独自の超音波技術と電子技術をもとに数々の世界初・日本初の商品を提供し続けてきました。そして今日、**世界80カ国以上に販売拠点**を有し、**世界規模の船用電子機器総合メーカー**として確固たる地位とブランドを築いてきました。



西宮本社



研究開発棟 SOUTH WING

2025年2月28日現在

社名	古野電気株式会社
本社所在地	兵庫県西宮市
設立	1951年（昭和26年）
事業内容	船用電子機器および産業用電子機器などの製造・販売
資本金	7,534 百万円
従業員（連結）	3,368 名
売上高（連結）	126,953 百万円
代表者	古野 幸男
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場

I R 情報サイト ⇒ <https://www.furuno.co.jp/ir/>

製品情報サイト ⇒ <https://www.furuno.com/>

企業ブランドサイト ⇒ <https://www.furuno.com/special/jp/corporatemovie/>

安全安心・快適、 人と環境に優しい社会・航海の実現



商船 向け事業



レーダー



ECDIS
(電子海図情報
表示システム)



衛星通信装置

漁業 向け事業



ソナー



魚群探知機



潮流計

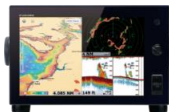


無線機器

プレジャーボート 向け事業



レーダー



マルチファンクション
ディスプレイ



GPSプロッタ魚探

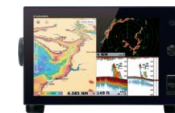


オートパイロット

ワークボート 向け事業



レーダー



マルチファンクション
ディスプレイ



GPSプロッタ魚探



オートパイロット

ITS・GNSS 事業



ETC2.0
/ETC車載器



ETC車両
管理ソリューション



GPS (GNSS)
チップ・モジュール

ヘルスケア 事業



生化学自動分析装置・試薬

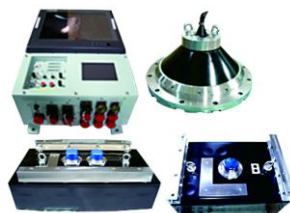


超音波骨密度測定装置

防衛装備品 事業



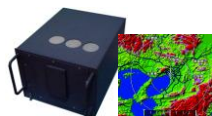
写真出典：厚木航空基地ホームページ
https://www.mod.go.jp/msdf/atsugi/gallery/index_r2.html



マルチビームソナー測深儀



GPS航法装置



マップジェネレータ
ユニット

無線LAN・ハンディ ターミナル事業



無線LAN
アクセスポイント



無線ハンディ
ターミナル